

# 長岡市長記者会見要旨

日 時：令和 8 年 4 月 2 4 日（金）午後 1 時 3 0 分から

会 場：アオーレ長岡 東棟 4 階 大会議室

【 会見項目 1：産前から産後、その先まで。

切れ目ない支援で『産み育てたい』をかなえる長岡へ 】

〈市長〉

平成 27 年度から長岡版ネウボラを展開し、妊娠、出産、子育て支援を実施してきましたが、今年度さらに 3 つの事業を加えました。

1 つ目は産後ケア事業の拡充で、従来の宿泊型施設を増やすとともに、訪問型と日帰り型を新たに導入しました。想定を上回る申し込みがあり、ニーズの高い事業であると受け止めています。出産直後から切れ目なく支援することとともに、このサービスを利用した後も、保健師が継続し支援し、母子の孤立を防ぐ体制を整えていきます。

2 つ目は不育治療費助成の開始で、既に実施している不妊治療費助成と一体的に活用していただくことで経済的・精神的負担の軽減が図れると考えています。

3 つ目は新生児の聴覚検査費用の助成です。入院時に任意で行われた初回検査費用を助成することで、全ての赤ちゃんが等しく検査を受けられるようにします。異常が見つかった場合は、保健師が継続的に関り、家庭を支えています。

今回の取り組みにより、産み育てたいまち長岡を目指します。

〈記者〉

市として、どれくらいの数を想定され、どれくらいの申し込みがあったのでしょうか。

〈こども家庭センター長〉

宿泊型が 20 人、日帰り型が 130 人、訪問型が 260 人を想定しています。現在、宿泊型は 17 人、日帰り型は 32 人、訪問型は 46 人の申し込みがあります。

〈記者〉

想定を大幅に超えてしまった場合、抽選になったりすることはあるのでしょうか。

〈こども家庭センター長〉

申し込みをいただいた方には皆さん支援を受けられるようにしたいと考えております。

〈記者〉

県内で日帰り型訪問型を導入されている市町村の把握状況をお伺いできますでしょうか。

〈子ども未来部長〉

産後ケア事業全体では、ほとんどの市町村がされていると思いますが、細かい宿泊型、日帰り型、訪問型の内訳は今、持ち合わせていません。

〈記者〉

昨年度までの利用実績はどうだったのか。長岡市の出生数は何人でしょうか。

〈子ども未来部長〉

宿泊型については、昨年度9組の方が延べ45日間利用されています。出生数は、令和5年度になりますが、1,432人になります。

〈記者〉

不妊治療費の助成はいつから始められたか教えてください。

〈こども家庭センター長〉

令和6年度からです。

【 会見項目2：昨年度は過去最多のクマ出没件数。被害防止に向けて！

春先からクマに遭わない・寄せ付けない取り組みを開始 】

〈市長〉

昨年度、本市においても過去最多となる338件の出没がありました。4月12日には本年度県内初の緊急捕獲も実施しました。夏に向けて活動が活発化すると予測されます。市民生活の安全安心を確保すべく、今から被害防止に努めていきます。

今年は出没が増える前の段階で早期のわなの設置を行っていきたいと思っております。

また、技能に優れた捕獲部隊の編成、捕獲技能向上と担い手育成を進めます。注意喚起の取り組みとして、観光拠点、コンビニエンスストア、アウトドアショップなどにチラシを配布して、幅広い周知啓発活動、注意喚起を展開します。さらに、児童生徒の通学時被害防除のため、6小中学校にクマ鈴を5月中に配布します。不要果樹伐採補助金や「地域の点検チェックシート」配布で地域の皆さんの被害防止に向けた取り組みもしっかり支援していきます。

〈記者〉

昨年度より1カ月から1カ月半早い出沒状況の理由はどのように分析していますか。

〈鳥獣被害対策課長〉

春の訪れが早く、冬眠が早く終わったことが大きな要因と考えます。

〈記者〉

昨年は何月からわな設置を開始したのでしょうか。

〈鳥獣被害対策課長〉

人里付近の出沒を受けて、6月頃から設置しました。

〈記者〉

設置場所の増加は考えていますか。

〈鳥獣被害対策課長〉

数でなく、過去の捕獲の現状、地形など状況を見ながらということ考えています。

【 会見項目3：空き家増加抑止目指し「第3期空家等対策計画」策定。

5年間で1.3倍増の実態調査結果まとまる 】

〈市長〉

今回、認定した空家は2,966件で、令和2年度調査から売買・解体で946件減る一方で、1,612件の空き家が新たに出て、全体で666件増加しました。状態を見ると、一部修繕必要なものも含めて利活用可能な空き家が86%と良好な物件が多く、早いうちに利活用とか売却などを考えれば、空き家にならず有効活用できるという可能性が十分にあると認識しています。

第2期計画に基づく取り組みで、空き家バンク登録制度は約8割成約と一定の成果があります。アンケートの回答者などに、成約率の高い空き家バンクへの登録を促すほか、高齢な所有者には住宅の状況を考えるきっかけとなるように、国が作成した「住まいのエンディングノート」の活用も促していきたいと思います。

令和9年度開始の第3期空家等対策計画の策定に着手します。空家等対策協議会からの提言も踏まえ、令和13年度における空き家総数の増加を防ぐ、実効性のある対策をまとめます。

空き家を、「地域の負担」から「地域の資源・価値」へ転換し、良好な住環境創出に取り組んでいきます。

〈記者〉

空き家バンクで成約されている空き家にはどういった特徴があるのでしょうか。

〈都市政策課土地住宅政策担当課長〉

立地の状況です。まちなか区域に関しては流動があると考えております。

〈記者〉

今回 1.3 倍増加しているということについて、どのように受け止めましたでしょうか。

〈市長〉

人口減少・高齢化のひとつの現れだと考えています。一方、住宅の建設コストが上がるなか、低コストで住宅を入手したいという若年も増えています。早い時期に流通に乗るマッチングが課題と考えています。

〈記者〉

空き家というのは、どういうものを指しているのか。

〈都市政策課土地住宅政策担当課長〉

一戸建て住宅で、1年以上住んでいないものが空き家になるかと思えます。

〈記者〉

令和2年以前に調査もあったのでしょうか。

〈都市政策課土地住宅政策担当課長〉

令和2年が第2期の空家等対策計画策定に向けた調査。その前に第1期の計画に向けた調査があります。

#### 【 会見項目4：事業承継実態調査を踏まえ伴走型支援体制強化 】

〈市長〉

長岡市は、後継者不在による黒字廃業防止に取り組み、昨年度、事業承継に関する実態調査を実施しました。後継者が決まっている企業は約32%にとどまり、廃業も考えている企業が約24%と、多くの企業が後継者の課題を抱えることが改めて認識できたところです。

調査結果で明らかになった企業の実情やニーズを正確に捉えるために、事業承継のサポートを専門で行う事業承継推進員を配置し、相談や情報収集を希望する374社を対象に訪

問しプッシュ型で支援します。事業者の希望に合わせて、事業者名を公開して承継先を探す長岡市公式のオープンネームマッチングサイトを作成し、マッチングの機会拡大も支援してまいります。

長岡商工会議所をはじめとした地域の支援機関と長岡市がしっかりと連携をとりながら、地域企業を未来に繋ぐこの機運を高めていきたいと考えているところであります。

〈記者〉

目標数値はございますか。

〈商工部長〉

具体的に何件というのはありませんが、年間の廃業する割合を少しでも減らしていくことを目標としたいと考えています。廃業数が長岡ですと90前後で推移していますので、これを少しでも減らしていきたいと思っております。

〈記者〉

廃業を考えている企業約24%に対する認識と、仮に24%が廃業したならば、長岡市にどのような影響を及ぼすとお考えでしょうか。

〈市長〉

24%はちょっと多いと感じています。何があれば事業継続してもらえるのかが、今回調査から出た課題だと考えます。

【その他質問】

〈記者〉

知事選を控えておりますが、市長として特定の候補者を応援する予定ございますか

〈市長〉

今、申し上げるようなものはないのですが、候補者が何を公約にし、頑張っていこうとされるのかしっかり把握して、そこは決めていきたいと思っております。

〈記者〉

市長として、花角さんの県政はどのように見てらっしゃいましたでしょうか。

〈市長〉

知事の仕事としては十分に頑張っていただいてきたと思っております。今後、産業面とか

原発の安全の面とかについて、今まで通りではなくて、3期目の決意を示していただけるのではないかなと思っております。

(記者)

知事選でどういったことが議論されてほしいか思いはございますか。

(市長)

特に、UPZ圏内にある長岡市として、公約の中にうたってほしいと思っております。

(記者)

UPZをうたってほしいというのは、具体的にどういうことを。

(市長)

昨年、UPZの要望書を国や県に出しているものですが、実際に回答のないものあるいは具体化されていないものがほとんどなので、そういったものをしっかり取り組んでもらいたい、原子炉の安全性、絶対に事故を起こさないような取り組みというものをまずやってもらいたいということと、万が一事故があったときに、やはり安全に避難できるような対策をしっかりと、特に雪国ですので、この冬の豪雪をみてわかるように、非常に難しい状況がありますので、そういった中でも、安全に避難ができるように条件整備を、しっかりやってもらいたいというような内容です。

〈記者〉

市長会は、現職を推すと決めたと思うのですが、その決定と市長のお考えは、別ということでしょうか

〈市長〉

市長会の方針は、私も賛同しております。ただ個別の課題については、公約を検討させていただく中で、お願いすべきはお願いし、主張すべきは主張していきたいと考えております。

〈記者〉

16日に営業運転をした柏崎刈羽についての所感をお伺いできますでしょうか。

〈市長〉

営業運転を行われたということは、停止しているときよりも、リスクは大きくなっている状況だと思っています。東電も絶対事故が起きないように万全な体制でやっているとは思いますが、いろいろなトラブルが出ておりますので、そういう意味で、本当に大丈夫か

という心配はあります。事故のないような運転が行われるように、全力を挙げてもらいたいと思っております。長岡市としても、そこで懸念があれば積極的に注意喚起とか、申し入れしていきたいと考えております。

〈記者〉

先日、UPZの自治体の協議会が発足しました。協議会の中で、長岡市がどういう役割を果たしていきたいか、どういうふうなものを強く求めていきたいのかお伺いします。

〈市長〉

UPZ 30 キロ圏は、原子力災害対策重点区域として指定されて、地域防災計画の策定とか避難計画の策定というものが義務付けられているわけです。そういう意味では安全性とか避難については、より厳しく、強く求めていくべきだということを会議で申し上げましたし、また会長の小千谷市長もその認識を表明されたと考えております。

〈記者〉

市長会の方針に対して、個別に全面的にというわけではないというお話でしたけれども、例えば公約が出そろった段階で、必ずしも花角さんを推さない可能性もあるということなのでしょうか。

〈市長〉

可能性あるかないかについて申し上げる段階ではないと思っております。

〈記者〉

揃った段階で見極めて、動きを考えていくということでしょうか

〈市長〉

しっかり考え、支援するなら支援する、物申すなら物申すということではないでしょうか。

〈記者〉

争点として、知事の本発に対する政治姿勢や、反本発を主張している立候補者なども出てきている中で、議論は深まってほしいところを伺います。

〈市長〉

知事選は本発ワンイシューの選挙ではないと思います。本発は長岡市にとって大事な課題でありますけれど、それが全てではないという認識を持っています。もちろん本発問題も

議論を深めてほしいし、長岡、中越地域の経済を、どのように発展させるかということについて突っ込んだ議論をしてもらいたいと思っています。

〈記者〉

「君と花火と約束と」という長岡花火を舞台としたアニメーション映画が7月に公開されます。それに対して何かありますでしょうか。

〈市長〉

本当に大きな期待を持っております。花火の評価は高まっておりますけれど、それが横に展開していく大きなきっかけになればと思っています。

〈記者〉

映画を見て、いらっしゃる方とか経済効果的な部分で期待する部分もあるでしょうか

〈市長〉

聖地巡りなども含めてですね、花火が綺麗というだけではなくて、ストーリーがある花火だということを皆さんに知っていただければと思っています。

〈記者〉

上水道の3割値上げについて、理解促進に向けて考えていること、呼びかけはありますか。

〈市長〉

安全で美味しい水を、行政の責任で供給していくのが一番大切だと思っています。AIとかIT技術を使い、全体の事業の効率化を進めていくということを約束しながら、料金改定については、認めていただければと考えております。

〈記者〉

減免とか、猶予とか緩和措置とかは。

〈市長〉

生活に影響するのは水道料金だけではなく、あらゆるところに出てきております。経済対策生活支援という中で、必要ならばできることを考えていきたいと思っています。